

とりで未来創造プラン2024

総合計画とは、私たちの住む取手市をどのようなまちにしたいか、将来都市像を描き、そのために各分野でどのような取り組みを行うかを定めた、まちづくりの基本的な方針となる計画です。総合計画の新たな基本計画「とりで未来創造プラン2024」が令和6年4月からスタートします。 ☎ 政策推進課 ☎ 内線1212

「総合計画」とは

総合計画は、市の行政運営の指針となる最上位の計画です。目指すべきまちの姿である将来都市像を「ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち とりで」と定め、将来都市像を実現するための方針を示す「基本構想」と、基本構想で定める項目を実現するために力を入れていく施策や事業を定める「基本計画」で構成されています。

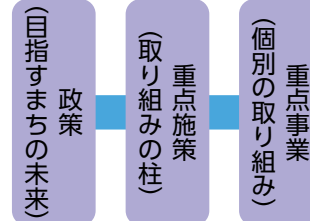
基本構想はまちづくりの長期的な方向性を定めるものなので、期限を設けていません。一方で、基本計画は時代の潮流や市民ニーズを的確に反映するため、計画期間を4年間としています。今回新たに策定した「とりで未来創造プラン2024」は基本計画に当たります。



「とりで未来創造プラン2024」の特長

この計画は、「取手の魅力を高め、取手を選んでくれた方のライフスタイルに寄り添い、幸せが継続する地域社会を創る」というコンセプトのもと、6つの政策(目指すまちの未来)を設定し、それぞれが関わり合いながらより良い取手市を目指すものです。重点施策(取り組みの柱)としては、新たにデジタル化の推進や脱炭素の取り組みを盛り込み、社会のトレンドに沿った計画としています。

政策1	快適で住みやすい都市の実現
政策2	魅力の創造と発信
政策3	未来をつくる世代を育むまちづくり
政策4	健康でいきいきとした社会の実現
政策5	大切な日常が守られる環境整備
政策6	将来にわたり発展する地域社会の構築



とりで未来創造プラン2024は3層構造となっています。

また、「市民と共有できる分かりやすい総合計画」を策定したいという思いから、市民や市内の高校に通う高校生、市の若手職員を対象としたワークショップ「とりで未来会議」を開催し、多様な意見を取り入れています。計画の体裁も見直しを行い、パソコンやタブレットなどのデジタル機器で見やすいよう、横型にしました。

4月1日付け 副市長2人が就任

☎ 人事課 ☎ 内線1130

住みやすさと魅力を高め、新たな行政課題に対応するために、市議会の同意を得て、伊藤 哲 氏、黒澤 伸行 氏の2人が4月1日付けで副市長に就任します。



伊藤 哲 (66)

▶主な職歴

昭和56年4月…茨城県庁入庁
平成12年4月…茨城県教育庁高校教育課課長補佐
17年4月…取手市教育委員会教育長
27年4月…茨城県教育庁総務企画部長
29年4月…茨城県教育財団専務理事
30年4月…取手市教育委員会教育長



黒澤 伸行 (54)

▶主な職歴

平成5年4月…建設省(現国土交通省)入省
17年4月…国土計画局大都市圏計画課専門調査官
25年4月…^{ぎのわん}宜野湾市理事(兼)建設部長
27年4月…関東地方整備局国営常陸海浜公園事務所長
令和3年4月…滋賀県土木交通部技監

4月1日付け 教育長と教育委員が就任

☎ 教育総務課 ☎ 内線2011

市議会の同意を得て、教育長に^{いしづかやすひで}石塚康英氏、教育委員に^{とべあまひこ}戸部明彦氏が4月1日付けで就任します。



石塚康英 (60)

▶主な職歴など

昭和61年4月…守谷町立守谷中学校教諭
平成19年4月…取手市教育委員会指導主事
令和3年4月…茨城県教育庁義務教育課長
4年4月…取手市立取手西小学校校長
5年11月…教育者表彰(文部科学大臣表彰)



戸部明彦 (67)

▶主な職歴など

昭和54年4月…土浦市立土浦第二中学校教諭
平成18年4月…取手市立藤代南中学校教頭
21年4月…取手市教育委員会指導課長
26年4月…取手市立取手第一中学校校長
令和5年1月…人権擁護委員に就任

4月1日から市の組織が変わります

☎ 政策推進課 ☎ 内線1211

▶こども政策室の設置

国が掲げる子どもが真ん中の社会を実現していくために、福祉部に「こども政策室」を設置します。

▶新型コロナウイルスワクチン接種推進室の廃止

「新型コロナウイルスワクチン接種推進室」を廃止し、保健センター保健予防係が業務を引き継ぎます。

「住み続けるほど好きになる街をつくる!!」



取手市長
中村 修

昨年4月に市長に就任し、かねてより私が目指している「住み続けるほど好きになる街をつくる!!」この思いのもと、今何が必要であるか、どのようなことができるかを考えながら、市政運営を進めてまいりました。令和6年4月から4年間の、取手市の進むべき方向性を定めた「とりで未来創造プラン2024(創造プラン)」は、こうした私の思いも込めつつ、社会情勢を考慮し、市民の皆さまが今求めるもの、そして今後の取手市が一層住みやすく魅力的なまちとして発展していくために必要なことを取り入れながら、計画策定を進めてまいりました。

この「創造プラン」と連動し編成を進めてきた新年度予算においては、厳しい財政状況の中にあっても、必要な事業を前に進めて

いくために、歳入確保策としてふるさと納税のさらなる強化を目指すとともに、重点的に実施していく施策や事業に対してメリハリのある予算配分を行いました。

併せて、取手市の喫緊の課題である少子化問題については、「こども政策室」を福祉部直下に配置し、子どもに関連した施策の司令塔として、子ども政策を強力に推進してまいります。

令和6年度は、「とりで未来創造プラン2024」のスタートの年度であり、各事業を軌道に乗せるためにも非常に重要な年であると考えます。私が市長に就任して初めての予算や組織体制の編成に加え、2人の副市長と新しい教育長を迎え、取手を愛する気持ちを、1人でも多くの方と共有できるよう、魅力の溢れる、愛されるまちづくりを進めてまいります。